

みんな、ごめんなさい…

家族のためにお母さん、たくさん抱かれます…♡

うおッ…♡
おおおッ…♡

あッ…♡

或る母の姦落
炭〇郎母、濃厚汁だく肉欲ご奉仕交尾編

作：濡れ枝垂れ



夫が亡くなり
女手一つで子供を育ててきたけれど
いよいよ生活が苦しくなりました。お母さんに
隣の村で、無生活に余裕のあるお母さんに
助けを求めました。

あの本当に助けて頂けるとは、さすがか。

「は、ホントですか？
いやあ、いいなあ♡
しっかり面倒見てやるからね♡」

「ありがとうございます」

「お母さん、ありがとうございます♡」

お母さんの太くて美しいお乳が、私に刺さる感じが大好き♡

「うっ、許し」

「お母さんが抱きかかっているのが大好き♡」

「お母さん、ありがとうございます♡」

はあ

家族が揃っていただけの機能。家族が揃っていただけの機能。

「さあ、私はお母さんのそばにいます」

夫が亡くなり
女手一つで子供を育ててきたけれど
いよいよ生活が苦しくなりました。
麓の村で一番生活に余裕のある弥吉さんに
助けを求めました。

…あの、本当に助けて頂けるんですか？

もちろんだ！
オラ、貯えだけはいっぱいあるんだ
ぞ、その代わりに…な？

家族が食べていけるだけの援助…
その代わりに要求されたのは
私の身体でした。

……分かりました
お受けいたします

！ほ、ホントだか？
いやあ、うれしいなあ♡
任せてけろ、しっかり面倒見てやるからな♡

（あなた、ごめんなさい…
でも私の心はアナタだけの
ものだから許して…）

こうして、私は弥吉さんのモノになりました。

弥吉さんは女性と床に入るのは
久しぶりだったらしく、
まるで赤子のように私の乳房に
吸い付いてきました。

キエちゃんのおっぱい……♡
デカくてふわふわでたまんねえなあ……♡

……んっ……♡

はぁ

とっつてもいやらしい舌づかいで
私の乳首を舐め回しながら
右手で私の乳房を鷺掴んで
感触をじっくりと楽しんでます。

荒い鼻息が乳房に当たり
弥吉さんが相当興奮しているのが分かります。

はぁ

もっ……

もっ……

ちゅっ

ちゅっ

キエちゃんはどこもかしこも
イヤらしいべ♡

ぞ、そんなこと……あ♡

弥吉さんが昔から私の事を
いやらしい目で見ているのは気付いていました。
会うたびに私の胸やお尻に
向けられていたじっとりとした視線…
厭でも自分がオンナとして
見られていることが分かってしまいます。

弥吉さんの口臭は少しきつかったけれど、
じっくりとお互いの唾液を交換していると
頭がぼうつとしてきました…

んむちゅ…♡今日は絶対帰さねえからな…♡
いっっぱいおまんこしよな♡

♡♡♡♡♡はい…♡♡♡♡♡

おまんこ♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

夫と最後に接吻をしたのは
いつだっただろう…

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

オラ、

もうこんななんなっちゃまったべ♡

ッ!
(嘘…、なんて大ききさなの…)

ズッ♡

ビクッ

ウ

セクッ

キキ…

ウ

キキ…

弥吉さんが私の目の前で
おチンポをぶらぶらと揺らし、
まるで自分の雄としての力を
私に誇示するように見せつけてきます。

弥吉さんのモノは途轍もない大ききさでした。
長さも太さも夫のモノとは比べものにならない、
女を啼かせる為だけにあるような立派なおチンポ…

これからコイツで
キエちゃんをたっぷり悦ばせてやるからな♡
覚悟してくれ…♡

ウ

ウ

口で弥吉さんのモノを丁寧に奉仕します。
むせかえりそうな男性の香りがする
顎が外れそうな程の巨根を口いっぱい
頬張り、私の唾液でしっかりと濡らします。

フッ

私の口淫を満足げに眺める弥吉さん。
これからこの凶悪なおチンポで
貫かれてしまうのかと思うと
私は少し不安が込み上げてきました。

んっ…心もひいいれふか…?
(気持ちいいですか?)

おっ…おほっ…心さ、最高だあ♡
(うへへ…あのキエちゃんか
下品なしやぶり顔晒して
オラのチンポをしゃぶってるべ♡)

んっ♡

フッ♡

んっ♡

んっ♡んむっ♡
(ああ…こんな大きなモノが
私の中に入ってくるのね…)

恋人のように手をしっかりと繋ぎ、
いよいよ抱かれる時が来ました。
弥吉さんのおチンポは既にパンパンに膨張し、
私のおマンコに早く入りたいと急いでいます。

あ、あのっ…
出すときは外でお願いします…

今更感じる罪悪感…
あの子たちを食べさせる為とは言え、
こんな不貞行為…許される筈がありません。

分かってる分かってる…
そ、それじゃあいくぞ…♡

…っ…はい、
いらしてください…♡





アツ
アツ
.....
♡

うおツ.....♡
おおおお.....♡♡

ムムム

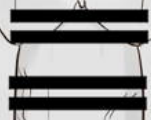
ムムム♡

ムムム
ムムム
ムムム

キスビキ...

キスビキ

キスビキ



おツ…♡おふう…♡
キエちゃんのナカ、キツキツだあ…♡

フェッ

あ♡

フェッ♡

キエちゃんがまさか
こんなスケベな肉穴持ってたとはなあ♡

…ツすけば、なんて
そんな…あ♡

はあ

は…

あ♡♡はあツ…♡
おっき…い♡

フェッ♡

はあ

それじゃ、いくぞお♡

あ♡♡

あ♡♡

弥吉さんと一つに繋がった瞬間
全身に快感が駆け巡りました。
おチンポのあまりの大きさに
膣の形が変わっているのが
はつきりと分かります。

この日、私は初めて夫以外の男の人に抱かれました。夫とはまるで違う、荒々しく自分勝手な腰使い…

こんな日が来ねえかと
オラずつと待ってたんだッ♡
この身体はもうオラのもんだッ
村の誰にも身体を許すんでねえぞッ

は、はいっ♡あんッ♡

雌を屈服させるための凶悪な突きに意識が飛びそうになるのを必死に堪えます。



私が弥吉さんの上に跨り
懸命に腰を振っていると、
弥吉さんに限界が訪れました。

あぁっ♡

あぁっ♡

あ、ああ…♡
いくぞ…グツ、ウウ…♡

グッ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

うおっ…そろそろイキそうだ…ッ

あぁっ♡

あぁっ♡

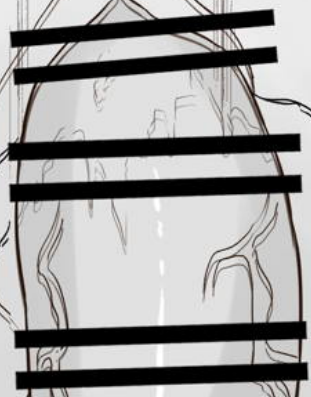
はぁっ♡
そ、外にお願いしますッ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

そして…



あーんッ
んッ!!!

とんちん

あーんッ

ぐおおッ………!おうッ♡

ああんッ♡

ブルンッ!

とんちん

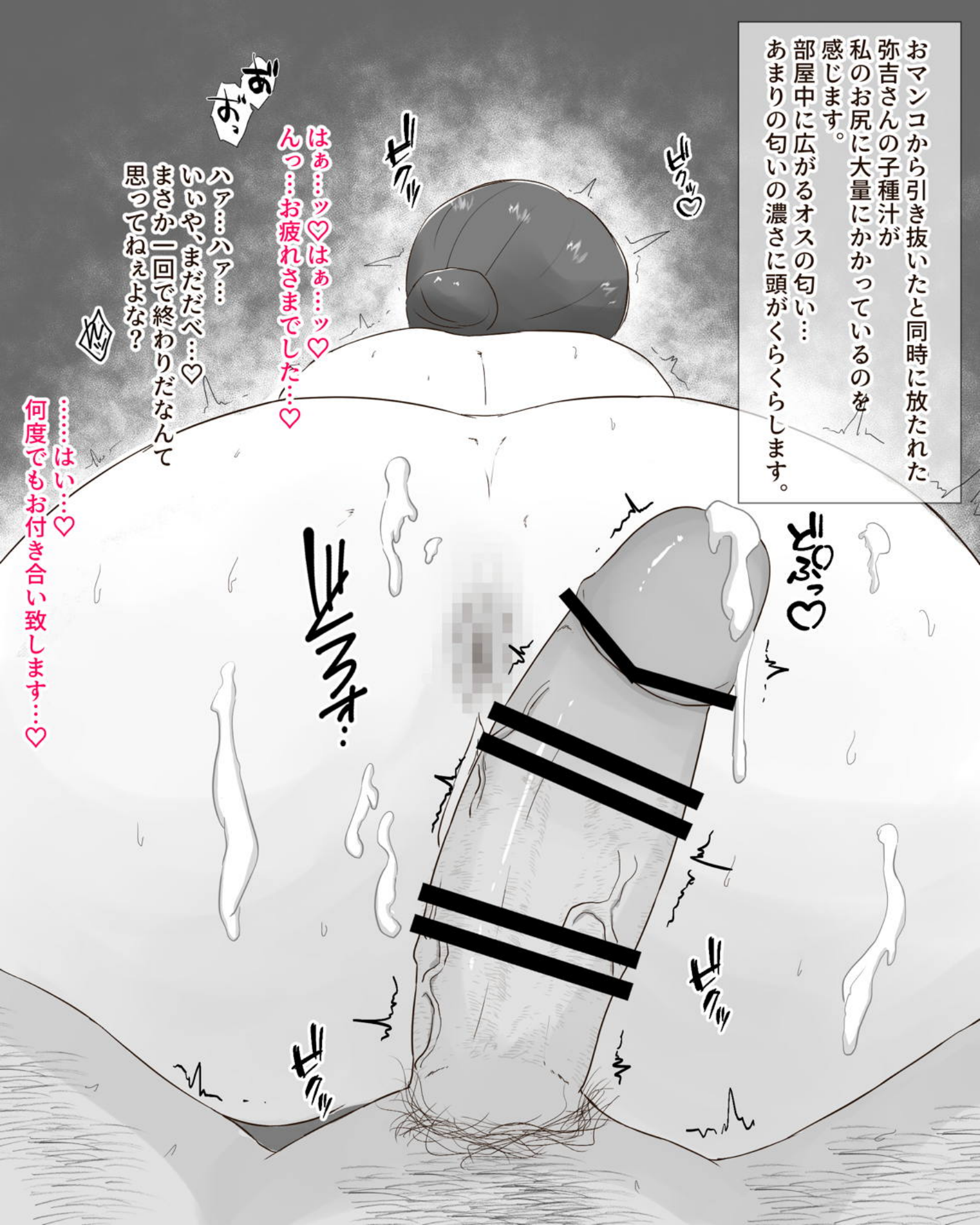


おマンコから引き抜いたと同時に放たれた
弥吉さんの子種汁が
私のお尻に大量にかかっているのを
感じます。
部屋中に広がるオスの匂い…
あまりの匂いの濃さに頭がくらくらします。

はあ…ツ♡はあ…ツ♡
んっ…お疲れさまでした…♡

ハア…ハア…
いや、まだだべ…♡
まさか一回で終わりだなんて
思ってたねえよな？

……はい…♡
何度でもお付き合ひ致します…♡



弥吉さんは飽きることなく
一心不乱に私の身体を貪ります。

あーっ

あ、
キエちゃんツ
やっぱり中に出させてくれえツ♡

あんツ♡ダメです…ツ♡
それだけはダメ…ツあぁツ♡♡♡

一度抱いたことで
私に対する所有欲が湧いたのか
何度も中出しを懇願されます。

種付けを断るたびに
おマンコを激しく犯し
私を懲らしめてきます。

だ…おツ♡おおツ♡
めえ…ツ♡♡♡

おまんこ♡

おまんこ

おまんこ♡

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

あん

はあ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ



キエちゃんツ
オラのややこ産んでけろツ！

あっ♡あんツ♡
か、堪忍して…くださいツ♡

いいでねえか！オラたちもう
こんなはずっぽしハメまくった仲だべ？

でツ、でも…私は
あの人の妻なんですツ♡

…ツ！くそツ今はオラのオンナだべ！？

あゝ

はあ♡

あん…あん

あゝ

あゝ

あッ♡待って♡
そんなに激しく…ツ♡あんツ♡
ああっ♡

あゝ

あん

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

ホレッ
オラの子供作りたいって言えッ
言うまで帰さねえどっ!

おッ♡おおッ♡
イ◇……♡♡♡
…ッ、ハアッ♡ハアッ♡
もう、許して…ッ♡おッ♡

弥吉さんの太くて遅いおチンポは
私の弱いトコロを的確に突いてきます。
否が応にもオンナを喘がせる凶悪なチンポ
に私程度の女では成すすべもありません。

(…ッ、ダメッ♡
これ以上されたら…
私、本当にこの人のモノに…ッ♡♡)



不意に弥吉さんの腰がピタリと止まりました。

：じゃあ援助の話は無かったことに
するしかねえかもな

そ、そんな…ッ！
話が違います…！

オラだって無関係の家族のために
これから身銭を切っていくんだ、
それくらいの善処はしてくれても
いいと思うんだけどな？

…アハハハ…



なあキエちゃん、子供たちのコト考えたら
どうするべきか…分かるよな？

…っ

初めから分の悪い取引…
こうなることは
弥吉さんに身体を許した時点で
決まっていたのかもしれない。
…私に残された道は
一つしかありませんでした

…キキ…

(泣)

…っ

は

は

…っください…

(泣)

…キキ…

…っ

んー？良く聞こえねえな

申出し、してくださいっ…っ…っ…♡



！へへっ♡遂に言ったなッ♡
ホラ、ドコに出してほしいんだッ

意地悪な人：
あくまで私の口から
「弥吉さんの子を孕みたい」と言わせたいのです。

あっ♡キエの、おマンコに
弥吉さんの子種汁お出しになって下さい♡♡

あッ♡



はあ、



おまんこ♡

おまんこ♡

子供はッ？

おッ♡♡おッ♡♡
…ッ…弥吉さんの子供
産ませてください♡♡

ハッ♡



あッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡



キエちゃんは軽いから
簡単に持ち上げられるべ♡

いやっ…恥ずかしい…♡

あっ

はま…

今更カマトトぶつても遅いべ♡
よく見る、オラとキエちゃんが
しっかり繋がってるトコロをよ♡

弥吉さんの射精から絶対に逃げられないよう
抱え上げられました。
股を思い切り開かされ、弥吉さんのおチンポが
おマンコにしっかりと突き刺さっているの
を見せつけられます。

ちゅっ…

ああ…凄い…ッ
あんなに大きなのが私のナカに…♡

へっ♡オラがオンナの極みに
連れてってやつからな♡
もう戻れねえぞ…♡

グズッ

グズッ

ぬちゅ♡

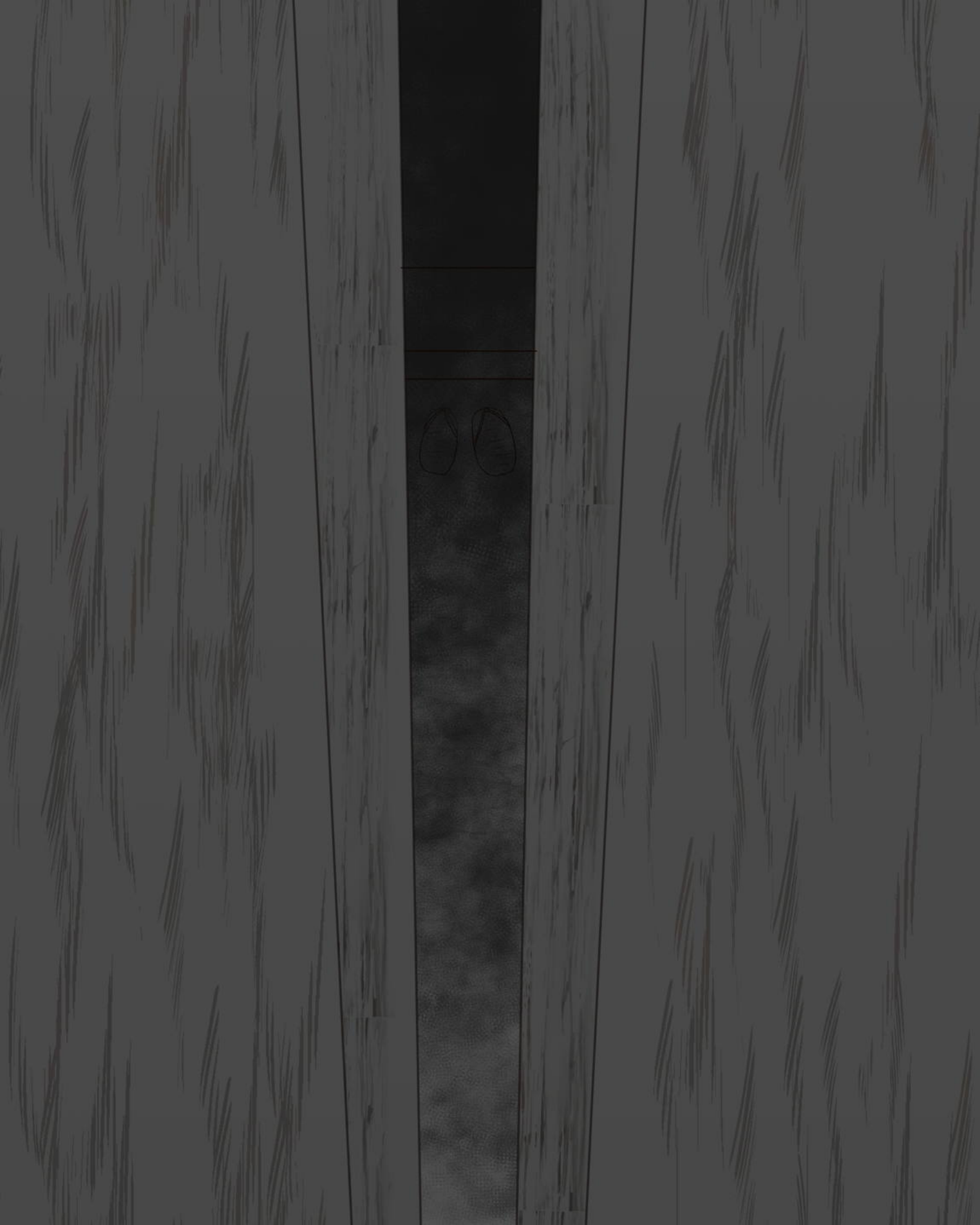
グズッ

ぬちゅ♡

はま…

はま…

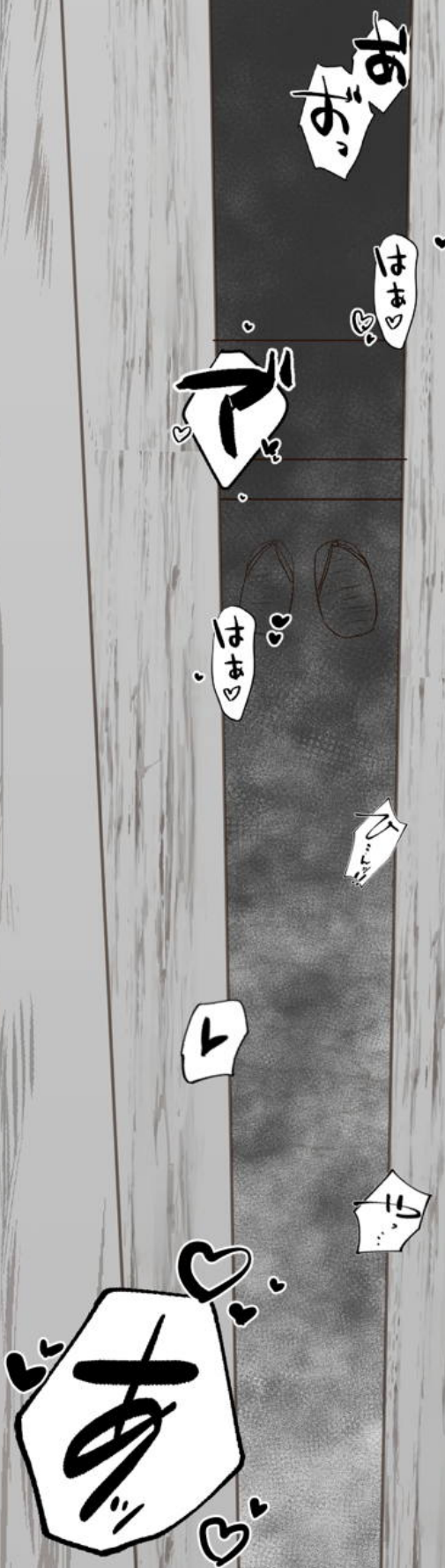




母さんが弥吉さんの所へ行ってくると
言ったり、数刻も帰ってこない。
心配になったので迎えに来てみたんだけど…

…？母さんの声？
弥吉さんと何してるんだ？

恐る恐る戸をそっと引いて
中を覗いてみると…



こりやあええ肉壺だあ♡♡♡
ほれッ♡ほれッ♡

んおおっ♡これ、深い…ッ♡

こうやって奥をガンガン突いちまえば
キエちゃんも孕みたがりの
ただのメス猿になっちゃうんだベッ♡

ああッ♡ダメっ♡ダメっ♡
これ奥までキテるっ♡

あッ

あッ

あッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ



眼前に飛び込んできたのは
弥吉さんと母さんがまぐわっている姿だった。
村の子からその知識だけは与えられていたけど
実際に男女の交わりを目にするのは初めてだった。
赤子のように抱え上げられながら
下品な雄たけびを上げる母さん：
そんな：あり得ない：
しかし脳が理解することを拒否しても
目の前の現実には進行していく：



ハアツハアツ
ぐおお…ツ！そろそろイクぞ…ツ！！

嘘だ…母さんそれはダメだ…！

あひツ♡あんツ♡あツ♡…ぐ…ツ…♡
や、やっぱりナカはやめ…ツ！

あ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ





おお

ウツ... おお... ツ

おッ
♡
おお
...
ん
...
ッ
♡
お

お
お
お

お
お
お

夥しい量の弥吉さんの子種がぶちまけられ、入りきらなかったモノが溢れでてきます。

うお…あ…ツ
中出し、決めたぞお…♡
オラの子種がキエちゃんの中身に…♡

…ツ♡あ…おツ♡
おお…ツ♡

年甲斐もなく派手に気を遣ってしまった私は
下品な声を隠すこともできません。
オンナとしての極みに至った感覚が
はつきりとありました。

キエちゃん、イッたんだな…♡
オラのチンポ、気ン持ちええだろ？

こーんただ身体の相性いいんだ
オラとキエちゃん
ええ夫婦になるだな♡

あ…♡は、い…♡

ドクッ
ドクッ
ドクッ

シラッオオ

は。

は。

は。

は。

は。

おめえさんは誰のモンだッ?

んッ♡んぶっ♡弥吉さんのモノれふっ♡

嫁なら旦那のチンポしっかり奉仕しねえとな?

んッ♡

っ♡ふぁい♡
お口でしっかり奉仕しますっ♡

んッ♡

んッ♡

んッ♡

(くぅ〜ッ
あのキエちゃんが遂にオラのモンに…♡
村の男ならみんな狙ってたオンナが…!)

んッ♡

んッ♡

んッ♡



ああッ…そろそろ出すぞ…
全部飲みよ…ッ

どうぞっ♡キエのお口に
出してくださーい♡



うおツ…お♡

ん♡♡…んツ

ツ

ビュルル

ツ

ツ

ツ

ツ



う…ッふうッ…♡
…へへっ♡いい顔してんなあ、キエちゃん♡
下品なメスの顔って感じた…♡

んっ…♡ゴク…♡ゴク…♡

弥吉さんの子種が喉を通って
胃に落ちていくのを感じます。
ねっとりと絡みつくような濃いモノが
まるで私を身体の内側から犯すように…

たまんねえ…♡キエちゃんは
最高の雌だ♡間違いないねえ♡

はあ

はあ

ゴクッ…

ゴクッ
ゴクッ

ふ…



一度中出しをして私の味を占めた弥吉さんは
すっかり亭主関白です。

オラツ！ここがいいんだベツ！？
キエはここが弱いんだろツ

あっ♡んんッ♡あっ♡
は、はいい♡

まるで野犬の交尾のように
後ろからガンガン突かれ続け
新しい子種が送り込まれる度に
膣内からは入りきらなかった子種汁が
どぼどぼと零れます。

もう何度胎内で射精されたか分かりません。
私が気を遣うとそれを罰するように子種を
撒き散らかされ、
まるで弥吉さんの掌の上にいるようです。

またイクんだな♡
さっさと気持よくなっつけ♡

ま、またイク…ッ♡いい、グ…ッ♡
おおッ♡おおお♡お♡お♡お♡お♡

おめえ

おめえ

おめえ

おめえ

おめえ

おめえ

おめえ

おめえ

おめえ

おめえ

おめえ

ズカズカ

あ

あ

は

い

ふ

か

あ

あ

ズカズカ

ズカズカ

ズカズカ

溢れ出るほどの子種を受け止めながら
弥吉さんからありもしない下品な疑惑の
言葉を浴びせられる母さん。
そんな筈ない…!!
母さんはそんな人の筈が…!!

全くツ
こんなスケベな肉身体中に付けて
外ほつつき歩きやがってツ
見るたびにマラが疼いて
仕方なかったんだ!
ホントはオラを誘惑してたんだろツ

おおっ♡そ、そんな…ちがッ♡

ズカズカ♡

あ

あ

まだカマトトぶるようなこと言うかッ
してたんだろッ

やっぱりなッ♡オラは知ってたんだッ
キエちゃんは孕みたがりの
ドスケベ淫乱オンナだって♡
もっと早くねんごろしとけば良かっただっ♡

あ
は、はひいッ♡
してましたあッ♡
キエはスケベな女ですッ♡♡

…嘘だ…母さん、嘘だと言ってよ…

オニ♡

おふッ

おふッ



おおッ…♡そろそろ最後だッ
デカいのかますぞ…ッ

弥吉さんが最後の射精の準備に入ります。
今までより一層腰使いが荒くなり
私の奥の奥まで掘り進んできます。

おおそうかッ♡
んじゃあ夫婦で派手にイッちまうか♡
ほら、上手におねだりしてみれッ♡

あッ

はッ

おッ♡い、…ぎ…ッ♡
私も…もう、イキま、ス…ッ♡

ハ
チュッ♡

ハ
ボッ

アッ♡はいッ♡あなたッ♡
イカせてください♡♡
この淫らな女に
最後のとどめを差して下さい♡♡

ハ
チュッ♡

ハ
チュッ♡

ハ
ボッ♡

ハ
ボッ

ハ
ボッ

ハ
ボッ

よおし、いくぞ…ッ

オラの子種たあんと
味わえよおツツ♡♡

ヒョロヒョロ

ヒョロヒョロ

ヒョロヒョロ

ムクムクおっぱい

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡



無限にも感じられる弥吉さんの射精…
太く長い肉棒から母さんの子宮に
子種を一気に注ぎ込んでいる。

今、目の前で絶頂の最中の女性は
自分たちのために身体を張っている
「母親」などではなく
一本のチンポに屈した卑猥で淫らな
「メス」なんだと感じた時、
自分の下腹部が痛いほど硬くなっていたことに
初めて気付いた…



ツふうー♡出た出た♡
流石に今日は打ち止めだ♡
キエ、愛してるぞ…♡

…は、…はい…♡
私も…♡す…♡ツ♡アナタ…♡♡

カクカクカクカク







心
天
地
人

心
天
地
人

心
天
地
人

心
天
地
人

心
天
地
人

心
天
地
人



心
天
地
人

心
天
地
人

母さんは壊れた絡繰りのように同じ言葉を繰り返している。父さんや家族への後ろめたさ母親としての責任…その全てをオンナとしての悦びが塗り替えていった…

わ、私…達を
たすけて…♡私、たち…♡

は…!!

は…!!

は…!!

は…!!

は…!!

任せとけ、キエも子供たちも
みーんな、幸せにしてやるだよ…♡

は…!!

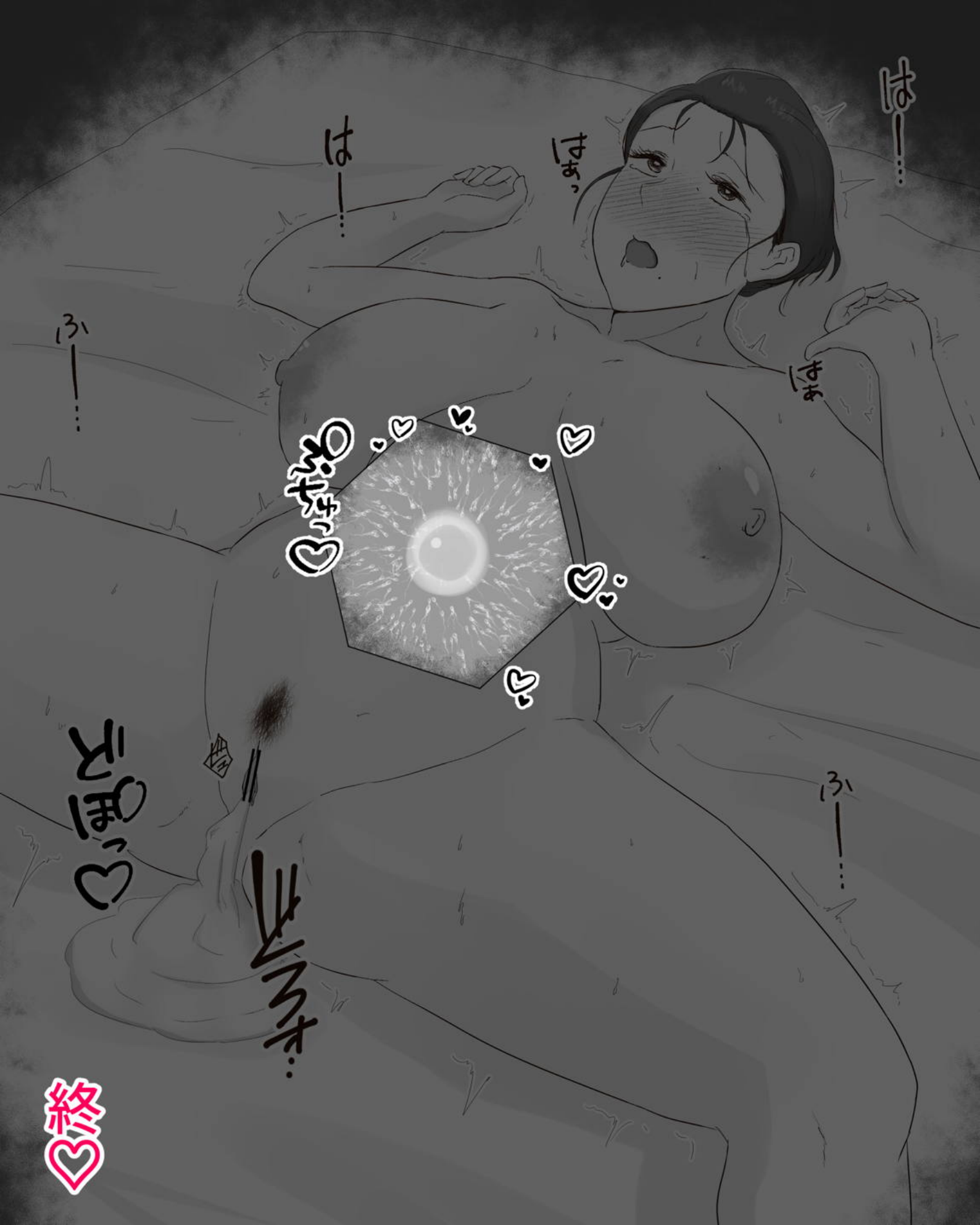
は、…い…♡
お願いします…アナタ…♡

(淫乱、メス猿…何と呼ばれてもいい…
私はあの子たちが守られればそれで…♡)

は…!!

は…!!





はー!!

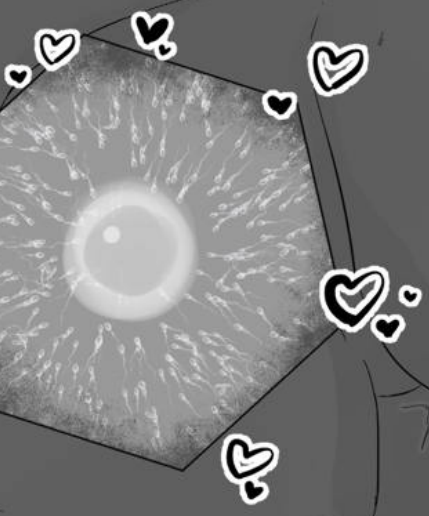
はー!!

はー!!

(3)

はー!!

QwQ

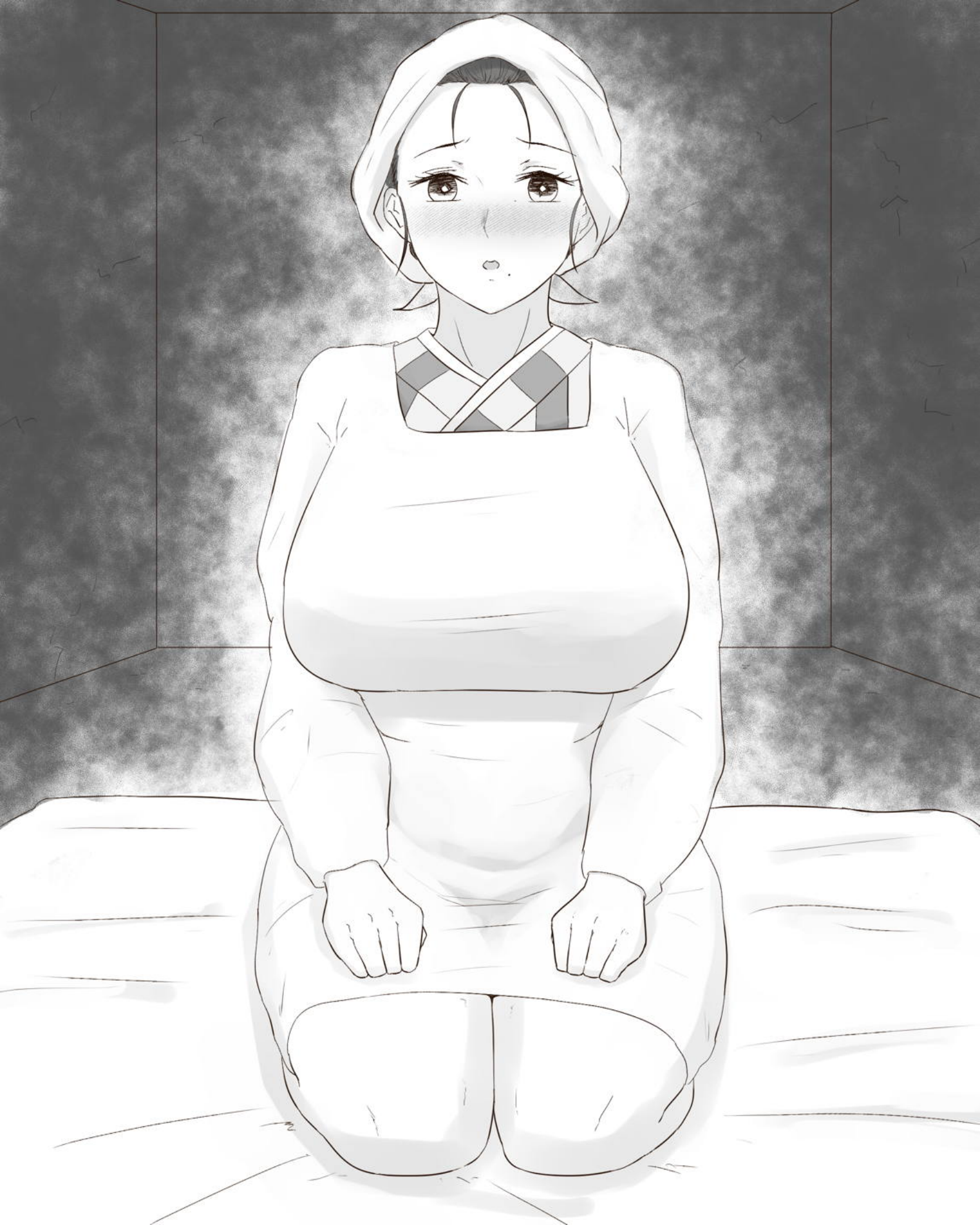


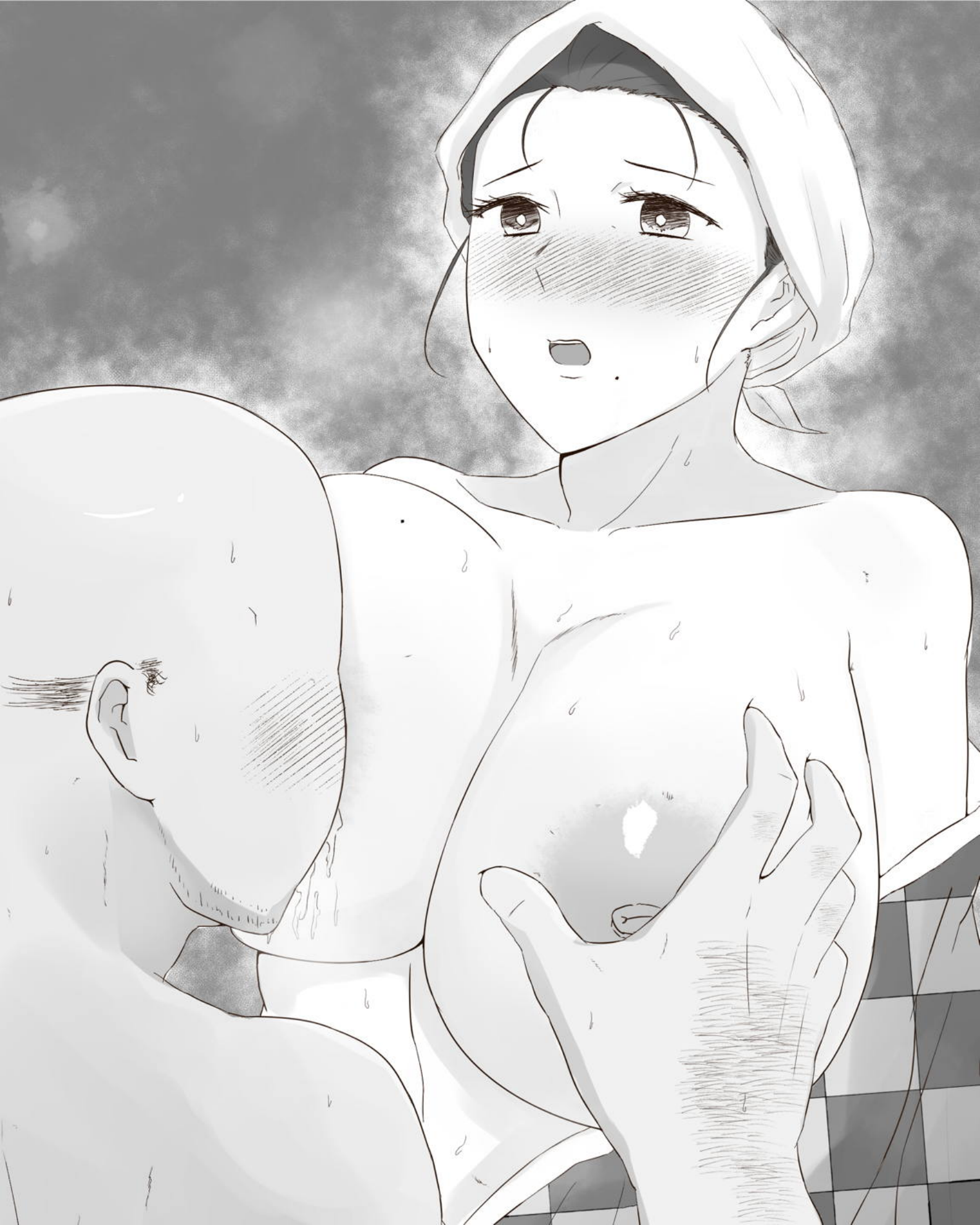
天理

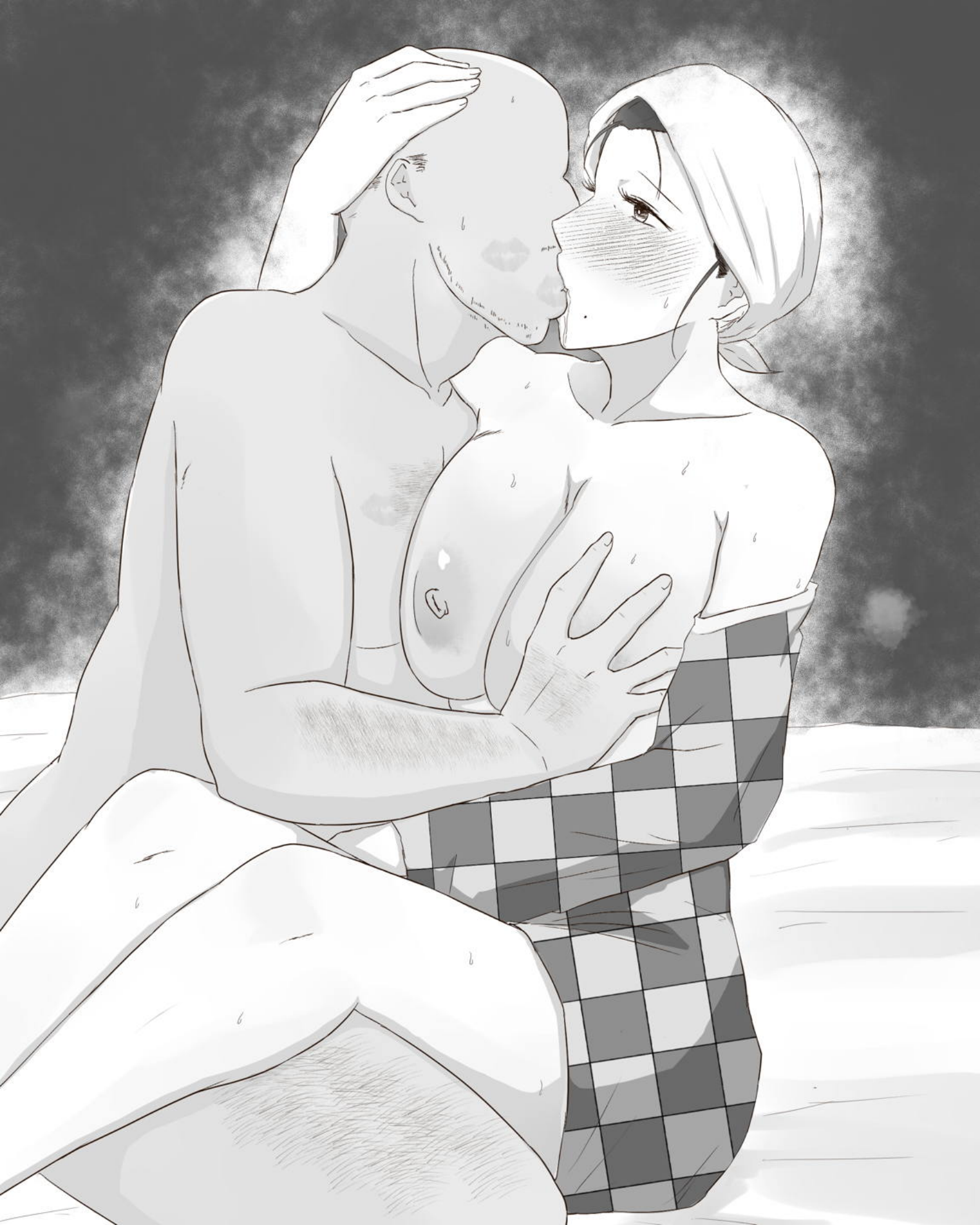
クマ

(3)

終



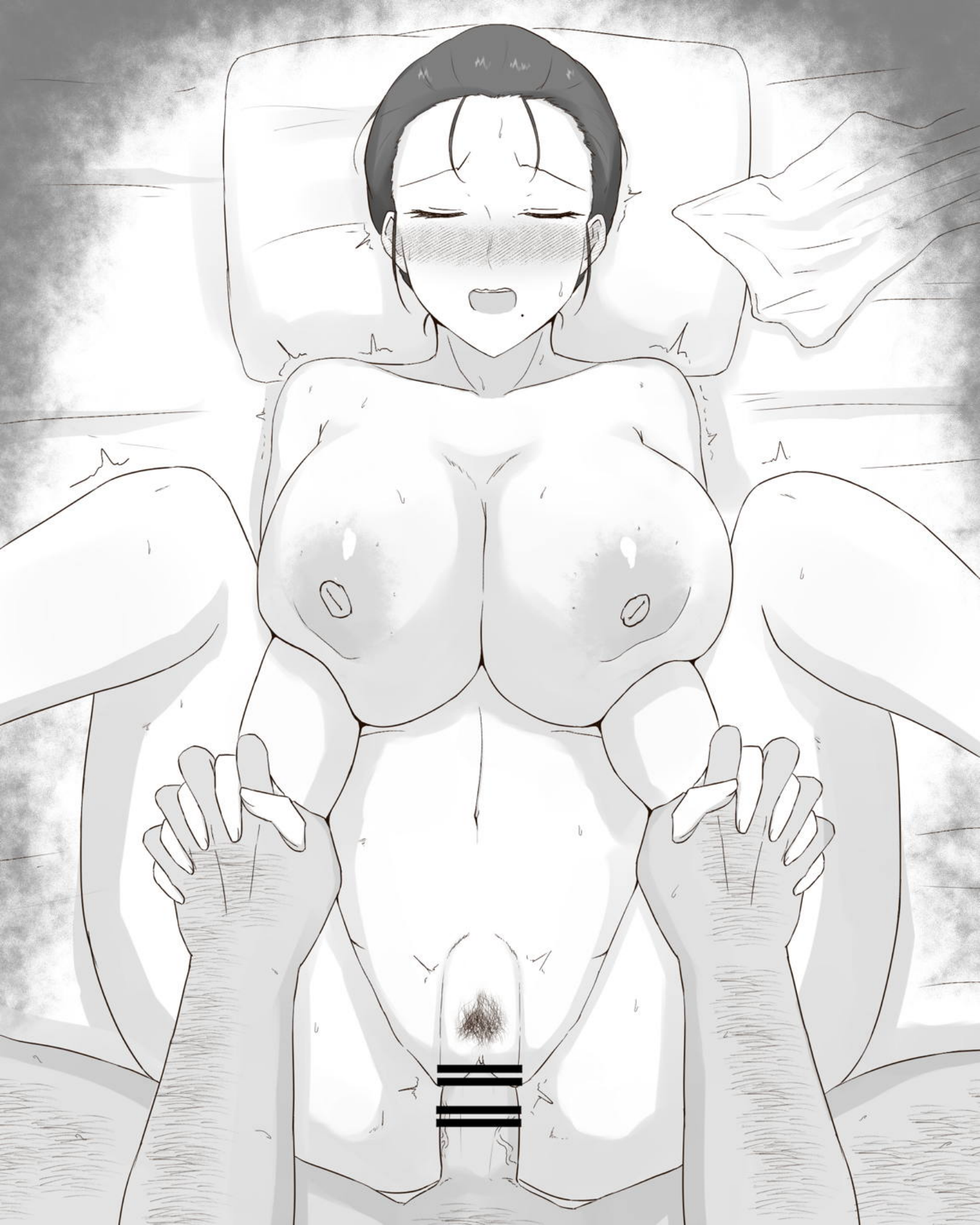




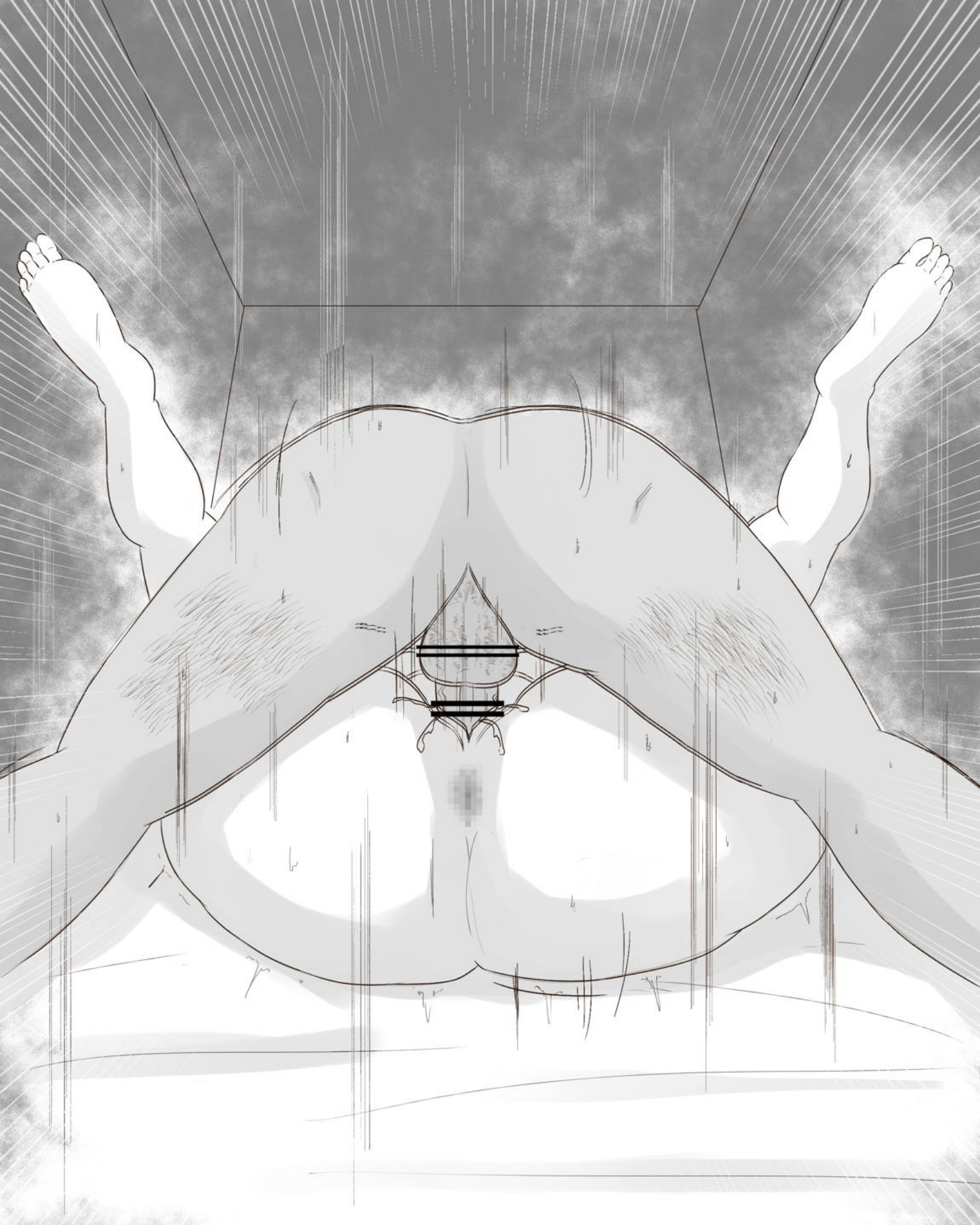


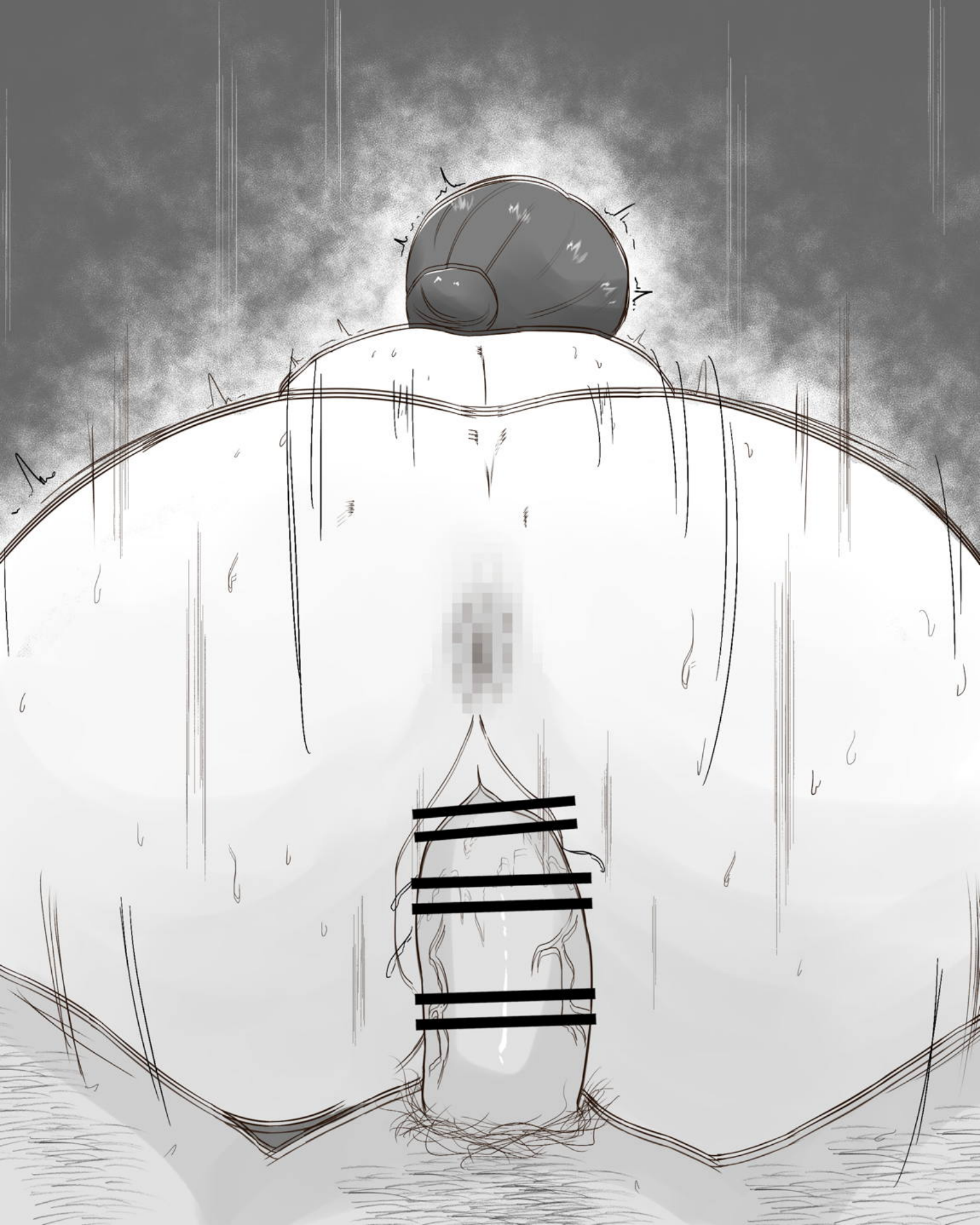




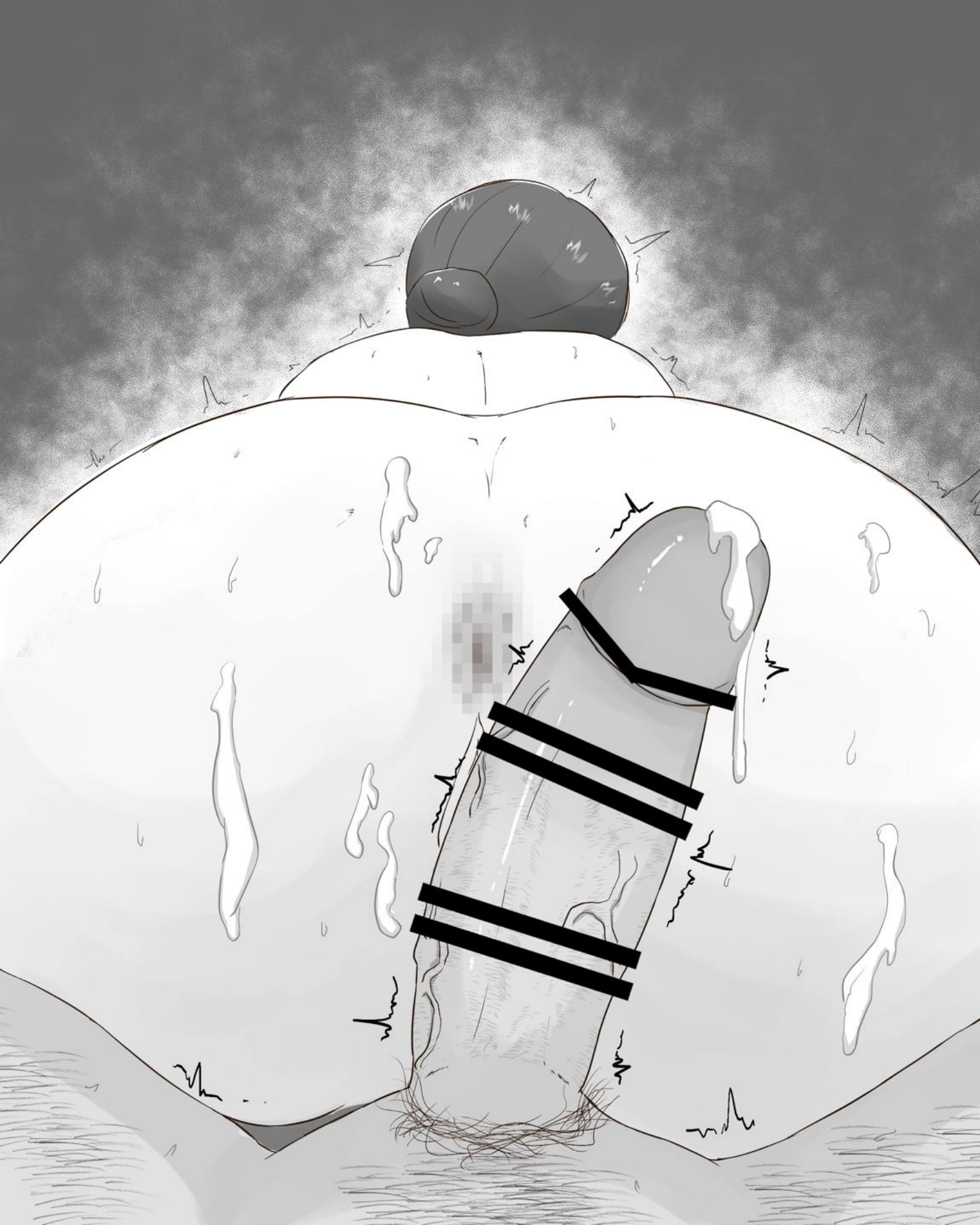


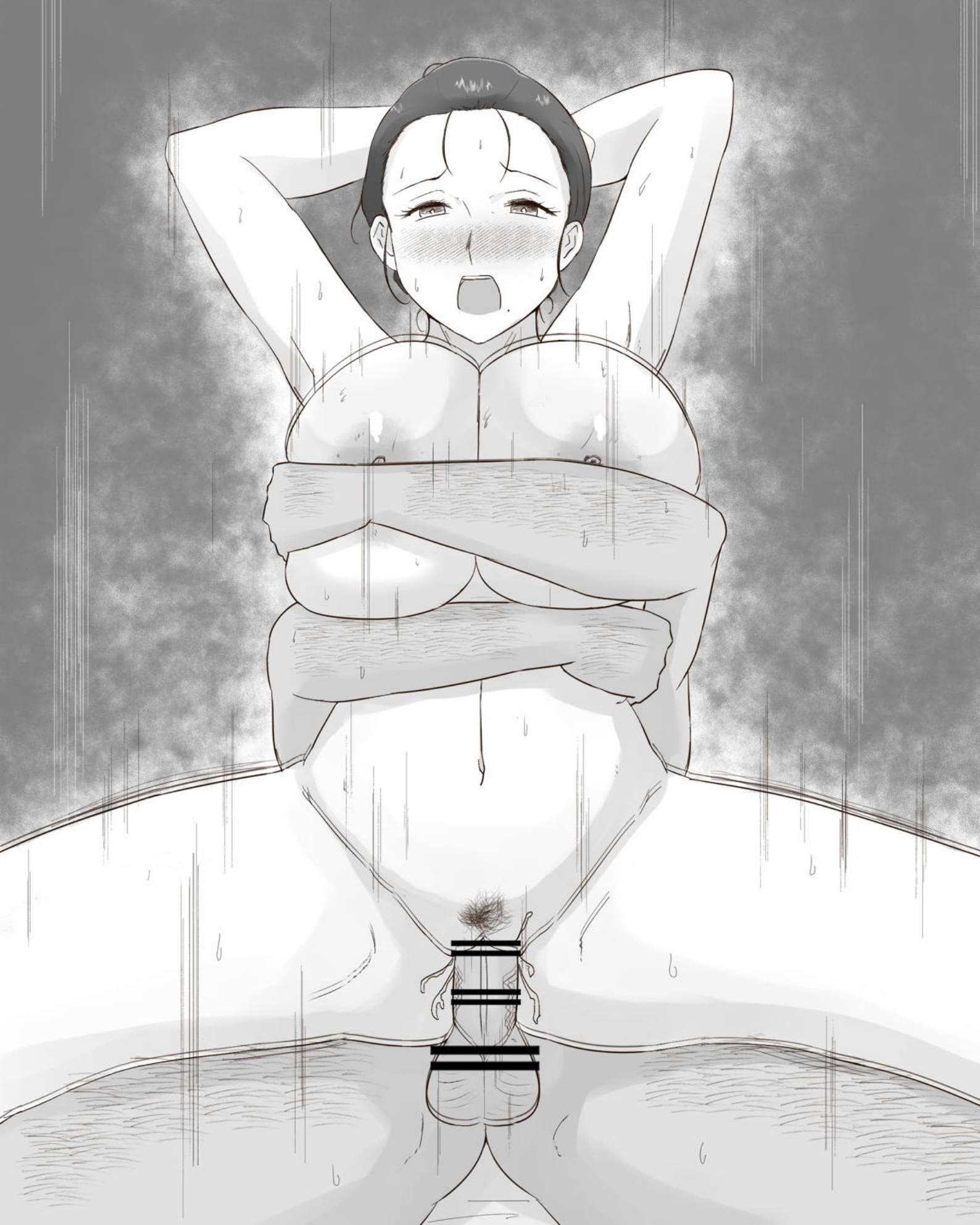


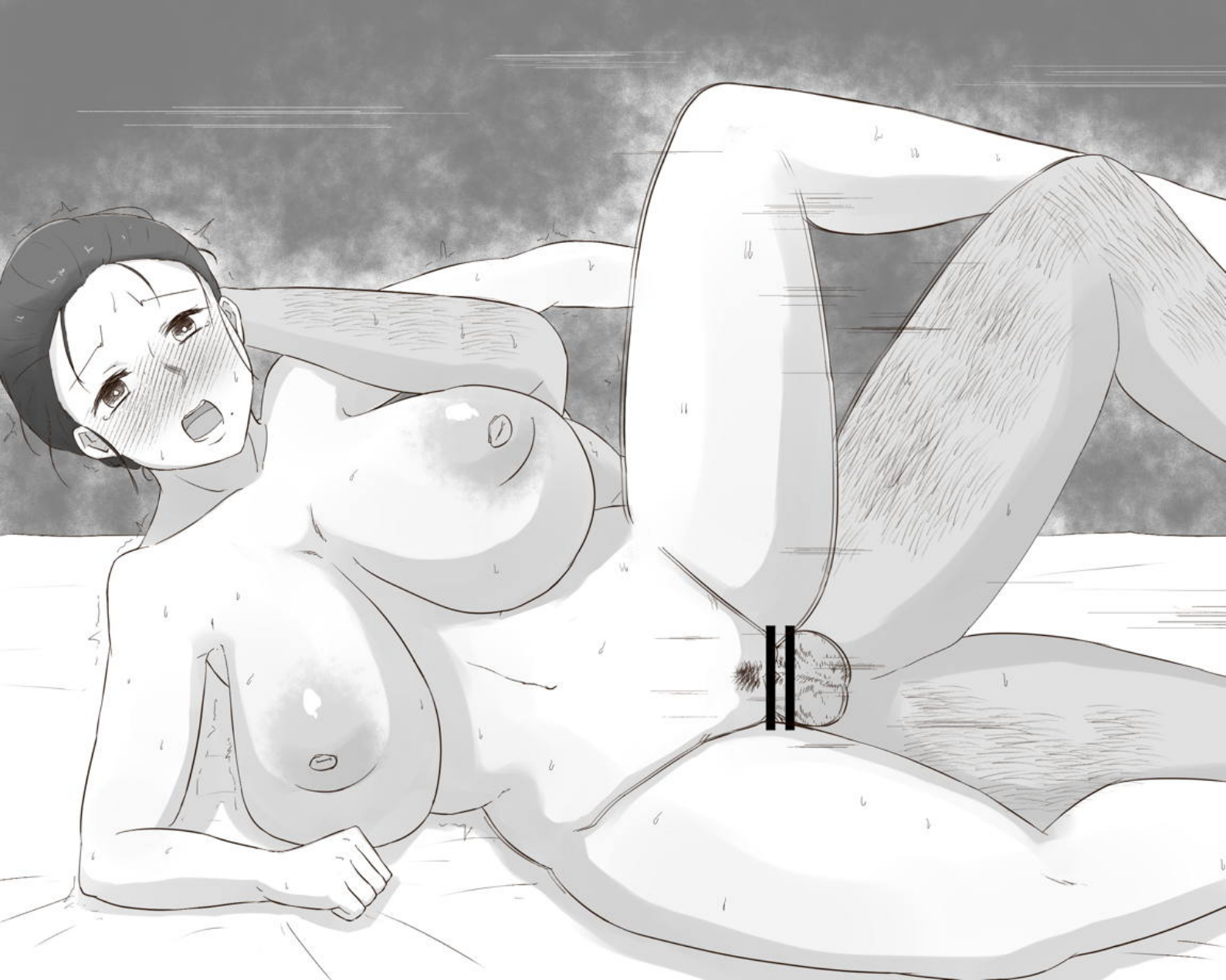






















16
16

16
♡♡

16
♡

16
♡

16

16

16

16
♡♡

